

令和7年度

運営に関する計画

大阪市立成育小学校

令和8年2月

大阪市立成育小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、これまで全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査では安定して正答率が全国平均や大阪市平均を概ね上回る結果となっている。その一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査では全国・市の平均値を下回っている項目が多い。体力向上のために運動の機会をどう保障していくかが大きな課題となっている。また、健康な身体をつくるためには、食育による食べることや食事についての意識付けが欠かせない。

児童アンケート「学校では楽しく過ごせていますか」の項目では肯定的な回答が90%を超えている。しかし、家庭環境などの様々な要因で不登校傾向になっている児童を減らすこと、いじめの未然防止や認知されたいじめを確実に解消していくことについては引き続き重点的な取組が必要である。

学校のきまりを守ることにに対する規範意識は高く、児童・保護者アンケートの肯定的回答も90%を超えている。あいさつについても児童と保護者ともに肯定的回答は85%を超えているが、「自分から進んで」「場に応じて」「気持ちのこもった」という点では課題が感じられる。

- ・ 全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査などを指標とし、現状を維持するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を重視し、言語活動の充実に取り組む。
- ・ いじめの件数を増やさないことや解消した割合を高くするために、心の教育やよりよい集団づくりを推進していく。
- ・ 体力の向上については、十分な運動スペースが確保しにくい中で、運動することの楽しさを味わい、運動の機会が増えるように工夫する。
- ・ 栄養のバランスを考え、しっかり食べることにともに、食事のマナーについての指導を行い、食育についての関心を高める。
- ・ 地域や保護者と連携を取り、校外や校内での安全教育に取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度の調査より増加させる。
- ・ 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度末より減少させる。
- ・ 令和7年度末の児童と保護者によるアンケートにおいて、あいさつについての設問における肯定的な回答を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より増加させる。

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より向上させる。
- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より上昇させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ ICTの活用に関する目標を設定する。
学習者用端末を活用した学習を行う時間を令和3年度末より増加させる。
- ・ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
令和7年度に年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を令和3年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・ 道徳教育や情操教育の機会をとらえ、心豊かな子どもの集団づくりに取り組むとともに児童理解に努める。早期発見やきめ細かな指導を行い、いじめを解消した割合90%以上を維持する。
- ・ あいさつについての校内調査において、肯定的な回答を80%以上にする。
- ・ 防災教育を通して防災意識を高め、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 校内アンケートにおける「外で遊んだり、運動したりすることが好きである。」に対して、肯定的に回答する児童を80%以上にする。
- ・ 残食量を前年度平均より減らすとともに、校内アンケートにおける「給食を残さず食べている」に対して、肯定的に回答する児童を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- ・ 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合80%を維持する。
- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」については、学校生活全般を通して、人とのつながりを大切にし、心豊かな子どもの集団づくりに取り組んできた。年に一度の「いじめ・いのちについて考える日」、学期に一度のいじめ未然防止についての取組、月に一度の「なかまについて考える日」が、児童・保護者にも定着している。同時に児童理解、いじめの早期発見・早期対応に努めており、いじめ解消の割合はほぼ100%であった。令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は89.8%であり、令和4年度から実施した際の数値81.7%より約8%向上し、中期目標を達成することができた。あいさつについては、代表委員会のあいさつ運動や毎朝の登校指導等の結果、肯定的な回答が90%であり、中期目標と同値であり、達成することができた。また、交通安全指導や不審者対応、避難訓練等の取組を通して、防犯・防災意識が高まり、自分の身の安全を守ることに對する最も肯定的な回答は、年度目標であった75%以上を上回り81%であり、目標を達成することができた。一方、不登校児童の在籍比率は1.48%であり、令和3年度の1.34%よりは増加している。しかし、令和4年度から令和6年度にかけての3年間は、不登校児童の在籍比率は2%から3%という数値だったため、現状の1.48%は改善傾向にはあるといえる。今後も本校の課題である不登校傾向にある児童への対応は、継続した取組が必要である。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」については、学力に関しては、研究主題を『みんなで創ろう！温かな「つながり」が生み出す深い学び～一人一人の意見が輝く授業づくり～』とし、校内研究に取り組んできた。その結果、令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をした児童の割合は39.4%で、前年度の40.5%よりも少し減少したが、肯定的な回答をした児童の割合は77%であり、昨年度より2.9%向上した。また、中期目標である令和3年度の33.1%よりも6.3%向上しており、中期目標は達成することができた。今後も引き続き、話し合い活動を通して、「話す力」とともに「聴いて考える力」も身につけていく。また、令和7年度の小学校学力経年調査にお

ける国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると、いずれの学年もほぼ令和3年度より向上させることができ、中期目標を達成することができた。体力に関しては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、昨年度の体力テストの結果と比べると、男女とも記録は大幅に向上している。校舎改築工事のため運動場が狭くなり、体を動かす機会が激減したことが昨年度までの課題であったが、児童の運動をする機会を増やす様々な取り組みや、学級や学年での体育の学習等での様々な工夫によって、体力の向上が図れたと考えられる。令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対しても、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は67.3%であり、令和4年度から実施した際の数値65.8%より1.5%向上し、中期目標を達成することができた。来年度も運動できる場所が制限されるため、狭い場所でもできる運動や一人でも体力の向上が図れる取り組みを行っていく。給食の残食量については、栄養職員の食育指導、給食委員会の給食週間等の取組を行ったため減少が見られたが、「給食を残さず食べている」に対する肯定的な回答は88%であり、90%にはわずかに届かなかった。今後も個別対応を中心に継続的に取り組んでいく。

「学びを支える教育環境の充実」については、校内ICT活用研修を充実させ、ICT担当教員やICT支援員を効果的に活用した。その結果、「ICTを活用した学習は好きですか」に対して肯定的に回答した児童の割合は93%であり、昨年度の90%より向上した。さらに、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数も、年間授業日の70%以上であり、目標値より20%ほど高く、達成することができた。また、ノー残業デーの月1回の設定に加え、夏休みや冬休みの長期休業期間に学校閉庁日を設けることで、教職員が年次有給休暇を年間10日以上取得した割合は95%を超え、令和5年度から実施した際の数値82%より13%向上し、中期目標を達成することができた。今後も働き方改革の視点から、さらに改善していく。

次年度も、各項目で取組内容を工夫しながら、年度目標を達成できるようにしていく。

(様式2)

大阪市立成育小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育や情操教育の機会をとらえ、心豊かな子どもの集団づくりに取り組むとともに児童理解に努める。早期発見やきめ細かな指導を行い、いじめを解消した割合90%以上を維持する。 あいさつについての校内調査において、肯定的な回答を80%以上にする。 防災教育を通して防災意識を高め、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を75%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校児童の登校支援に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 特別委員会を学期に1回以上行い、不登校傾向の見られる児童への早期対応を組織的に行う。不登校の児童の状況把握を学校全体でできるようにする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>心豊かな子どもの集団づくりと児童理解に努める。</p> <hr/> <p>指標 道徳教育や情操教育、より健全な集団づくり(異学年交流)を月に1回以上取り組み、他者とのつながりを大切にして、認め合うことができるようにする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>地域と連携し、安全教育に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 地域の見守り活動や、校内の防災・減災・安全教育に取り組む、校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して、最も肯定的な「はい」と回答する児童の割合を75%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 心の天気・ミマモルメを活用して、毎日児童の様子を確認したり、毎月の生活指導部会で気になる児童の共有をしたりした。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、さまざまな機関に協力を仰ぎ、一人一人に合わせた対応をした。
- 今年度より、SSR（スペシャルサポートルーム）を開設し、担当教員を配置することで、いつでも児童を受け入れられる体制が整い、保護者が安心して児童を登校させることができた。また、保護者と連携し、児童と学校とのつながりを保つことができるようにした。
- いじめに関する学習は、学期に一度は必ず取り入れた。また、いじめにつながるような場面があれば、その都度話合いを行い、どんな理由があってもいじめはいけないことを指導した。
- ② 週1時間の道徳科の授業を要とし、自己肯定感を高める活動を行うことによって、自尊感情が高まった。また、学級活動での話合いの取組によって、他者を認め合うことができるようになった。
- 図画工作科では、作品展を通して自分たちの思いをのびのびと表現することができた。
- 月に1回以上の集会でのたてわり班活動やクラブ活動、委員会活動などで、異学年交流ができた。全校集会や成育フェスティバルでも仲が深まった。
- 今年度の研究主題として「あたたかなつながり」を設定したことで、児童が安心して学習に取り組める環境づくりができた。
- 今年度は、全校遠足オリエンテーリングが未実施だったことや、休み時間の校庭遊びの時間が限られたこともあり、交流の機会が減った。
- ③ 校内調査における「自分の身を守るため、安全に気をつけて生活していますか」に対して最も肯定的な回答をする児童の割合は81%であり、目標の75%を上回った。火災、地震・津波、不審者発生時の避難訓練を各1回、交通安全指導を2回行った。また、日頃から教職員一丸となって学校内の右側歩行を指導するとともに、レモン隊と連携して登下校中の安全が守られるようにした。現在、緊急時の引渡訓練の計画を進めている。2月に教職員の動きの確認を行い、そこで出た課題を基に、児童と保護者を交えた訓練を次年度に行う予定である。

【中期目標】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は89.8%であり、令和4年度から実施した際の数値81.7%より約8%向上し、中期目標を達成することができた。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は1.48%であり、令和3年度の1.34%よりは増加している。しかし、令和4年度から令和6年度にかけての3年間は、不登校児童の在籍比率は2%から3%という数値だったため、現状の1.48%は改善傾向にはあるといえる。
- 令和7年度末の児童と保護者によるアンケートにおいて、あいさつについての設問における肯定的な回答が90%であり、中期目標と同値であり、達成することができた。

次年度への改善点

- ① 今年度実施した SSR の設置、見守りの教職員の配置を継続することが望ましい。また、不登校の児童を受け入れる体制づくりだけでなく、児童の不登校を未然に防ぐことができるような方法についても考えていく。
- ② 全学年での異学年交流は定着してきているため、ペア学年での交流（生活面や学習面を支える取組、できれば学習の時間内で）を積極的に行うことで、児童同士のつながりがさらに深められると考える。今年度は 1・6 年生のプール交流、1・2 年生の学校探検を実施したが、特に交流の少ない学年間での交流を考えていく。
集会での異学年交流で、互いの名前や学年が分からないまま一年を過ごしていた児童がいた。年度当初に、遊びを通じた互いを知る機会を多くもつ必要がある。また、活動の輪に入ることが苦手な児童への声かけを積極的に行っていく。
どの活動も学年の偏りや授業時数などに配慮し、負担のない活動を工夫していく。
- ③ 災害などの緊急時には、共助によって救われる命がある。そのため、個々のつながりを日頃からつくっておくことが重要になってくる。地域や学校における挨拶の声がこれまで以上に聞こえてくるようにする。また、委員会の仕組みを活用し、「あいさつ運動」を定期的に行うようにする。代表委員会などの運営のもと、門前に立つ児童を各学年で担当するなど、全ての児童が主体的に参加できるよう工夫する。併せて「あいさつビンゴ」のようなゲーム要素を取り入れることで、楽しみながら挨拶のよさを実感できるようにもしていく。

大阪市立成育小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「外で遊んだり、運動したりすることが好きである。」に対して、肯定的に回答する児童を80%以上にする。 残食量を前年度平均より減らすとともに、校内アンケートにおける「給食を残さず食べている」に対して、肯定的に回答する児童を85%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>温かな「つながり」による深い学びに重点をおいた授業を行う。</p> <hr/> <p>指標 全員が年1回以上公開授業を行い、授業内容を検証する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>楽しく運動することを通して、体力の向上に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 運動の機会が増えるように、運動委員会の体力向上の取組を年3回以上行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号5 健やかな体の育成】</p> <p>「食べる力」をはぐくみ、健康の維持増進や体力向上に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 給食委員会で、給食の残食調べを実施して児童の実態を把握し、個に応じた取組を行う。校内アンケートにおける「給食を残さず食べている」に対して、肯定的に回答する児童を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号5 健やかな体の育成】</p> <p>「生きる力」を育む生・性に関する取組を推進する。</p> <hr/> <p>指標 児童の実態に応じて、年間計画に基づき「生きる力を育む性に関する指導」を実施する。性教育の取組の前後に実施する「生命(いのち)の安全教育アンケート」に対して、肯定的に回答する児童の割合を5%向上させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 今年度は、研究主題を「みんなで創ろう！温かな『つながり』が生み出す深い学び～一人一人の意見が輝く授業づくり～」とし、授業研究に取り組んだ。その際、「①一人一人が自分の考えをもつための工夫」「②温かな『つながり』を実現するための工夫」「③深い学びの見取りの工夫」の3つの視点に沿って授業を見直し、日々の授業改善を行った。12月までにすべての学年が研究授業を終え、授業後の研究討議会では、3つの視点に絞って話し合い、より温かな「つながり」を目指した授業内容の工夫について研究を深めることができた。

また、指標の通り、すべての教員が年1回以上の公開授業を行った。さらに、日ごろから教員同士で授業を見合い、授業アイデアを共有するなど、研究主題の達成に向けて教員同士で活発に実践交流や教材研究を行った。こうした日々の取組により、児童アンケートにおける「学校の勉強は、わかりやすいですか。」の項目に対しては94%、「学級の友達と話合う活動を通して、自分の考えをしっかりとつとめていくことができますか。」の項目に対しては93%の児童が肯定的に回答する結果となった。後者は全市共通目標にも関わる質問項目であるが、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合も65%であり、目標を達成した。

② 運動委員会による取組を、教室や運動場、体育館、蒲生グラウンドの4つの場所で計画・実施し、指標を達成できた。また、日々の体育科の授業において、限られた環境の中でも、教具やワークシート、ICT機器などを活用することで、児童が楽しみながら運動することができるよう工夫し、体力向上に努めた。

③ 「食べる力」を育むことを目指した食育活動は、給食時間の個別の指導を中心に、食育の視点に関連する教科、栄養職員による食に関する指導などで実施してきた。また、各種たよりや給食カレンダー、給食委員会の活動などを通して、児童の食への興味や関心を高めるための取組を行った。このことにより、数値目標である児童アンケートにおける「給食を残さず食べていますか」の項目に対して、肯定的に答えた児童の割合は88%であり、目標値の85%を達成できた。

給食の牛乳残率が、3.49%（R7.5月平均）から0.43%（R8.1月平均）に減少した。また、給食室で給食の感想を笑顔で話す児童も多い。今回、全体としては一定の成果が得られたが、児童一人一人に焦点をあてると、偏食や時間内に食べ終えることが難しいなど、継続した個別対応の必要性を強く感じる結果となった。

④ 年間計画に基づき、各学年の実態に合わせて、「生きる力」を育む生・性に関する取組を実施した。取組の前後に「生命（いのち）の安全教育アンケート」を実施し、2回目のアンケート結果では、1回目のアンケート結果より全ての項目において肯定的に回答する割合が同等以上になった。ただし1回目の結果が90%前後だったので、平均3%の向上に留まった。「ひとりひとりの心と体を大切にする」の項目に対しては7%向上した。

プライベートゾーンについての指導、SNS使用に関する授業、非行防止教室、虐待防止授業など、児童を取り巻く生・性に関する問題に向き合う取組を実施したことにより、児童の意識がより向上した。

【中期目標】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をした児童の割合は39.4%で、前年度の40.5%よりも少し減少したが、肯定的な回答をした児童の割合は77%であり、昨年度より2.9%向上した。また、中期目標である令和3年度の33.1%よりも6.3%向上しており、中期目標を達成することができた。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると、いずれの学年もほぼ令和3年度より向上させることができ、中期目標を達成することができた。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対しても、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は67.3%であり、令和4年度から実施した際の数値65.8%より1.5%向上し、中期目標を達成することができた。

次年度への改善点

- ① 引き続き、主題の実現に向けた授業研究や教員間の学びあいを進めていく。
- ② 運動委員会の取組時期に偏りがあったため、学期に1回とするなど回数について配慮が必要だった。また、来年度も建替工事のために運動できる場所に制限があるため、教室など室内でできる活動を工夫する。
さらに、体力向上を目指すため、年間を通して体育科学習で行う運動を設定するなど、効果的な取組を検討する。
体育館に空調設備が設置されると運動する機会を増やすことができる。しかし、工事期間中は体育館が使用できないため、その期間の運動についても検討する必要がある。
- ③ これまでの成果を維持しつつ、来年度はさらに児童一人一人の「食べる力」を育むことに重点をおいた食育に取り組む。そのために児童の食の課題をつかむための方策、発達段階に応じた指導法についても検討していく。さらに教職員の交流の場を設けて、給食指導についての情報交換をしたり、食育への理解を深めたりしていく。
- ④ 各学年の年間計画に基づき、6年間の系統立った計画であるかの見直しをする必要がある。アンケート内容については、全学年同じ質問項目や内容ではなく、発達段階や各学年の取組に応じた振り返りを実施する。その結果を踏まえて、次の指導内容に活かすことができるようにする。
今年度、校内で性に関するいじめ事案が起こった。性的・下品な言葉と性加害の違いを見極められていない実態が明らかになった。学校全体で共有し、再発防止に繋がる生・性に関する指導の必要性がある。単発の取組で終わる指導ではなく、生・性についての意識が高まるように繰り返し指導し、児童自身が考えられるような取組を計画していく。また、生・性教育の指導案や教材などについても校内で共有できるようにする。

大阪市立成育小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 年次有給休暇10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合80%以上を維持する。 ノー残業デーを月に1回設定し、教職員同士で声を掛け合って働き方に対する意識を高められるようにする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ICT機器を効果的に用いて、学習者用端末を活用した学習を工夫する。</p> <p>指標 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合80%以上を維持する。アンケートの結果から検証し、児童の実態からICTを用いた学習の推進を図る。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員同士で声を掛け合って働きやすい環境を整備する。</p> <p>指標 ノー残業デーを月に1回設定し、働き方に対する意識を高められるようにする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 校内アンケートにおける「ICTを活用した学習は好きですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は92.6%であり、目標を達成することができた。 各学年の児童の実態に応じて、活用方法の工夫に取り組んだ。Google や Microsoft、Canva、SKY MENU など学習の深まりを目指して取り組むクラスが増えた。ICTを活用した学習を推進することができた。</p> <p>② ノー残業デーを月1回実施することができた。教職員の働き方に対する意識が高まった。教職員同士でも声を掛け合い、早く退勤することを心掛けた。</p>	

【中期目標】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上であり、目標値の50%以上より20%ほど高く、目標を達成することができた。
- ・ 年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合は95%を超え、令和5年度から実施した際の数値82%より13%向上し、中期目標を達成することができた。

次年度への改善点

- ① 引き続き、ICT支援員とともにICT教育の充実に取り組む。そのために、ICT支援員と連携し、ICTを効果的に活用できる実践などを教職員に情報共有できるようにする。
また、ICT活用技能の学年別到達目標を校内で立てるなど、系統立てて指導する内容を校内で検討し、児童と教職員のICT活用能力の向上を目指す。
- ② 引き続きノー残業デーを月1回設定し、取り組んでいく。また、ノー残業デー以外の日でも退勤時刻を早められるよう、授業時数や行事、校時の調整、放課後の会議や研修の精選、SSSとの連携などを通して、日頃の業務量を軽減していき、教職員がより働きやすい環境にしていく。